



和風レストラン
仕出し

寿楽

店主 甲斐田 功

☎ 0957-53-6181

福澤諭吉といえば？

「天は人の上に人を造らず、
人の下に人を造らず」
が有名ですが、ビールについても素晴らしい名言を残しています。
それは「西洋衣食住」の中にある、「ビールと云ふ酒あり。是は麦酒（きょうきん）にて、其味至て苦けれど胸膈を開く為に妙なり」です。胸膈を開くとは、腹を割って話すということです。つまり福澤は、日本人にビールを紹介する時に、ビールは友達が出来たお酒なんだよ、と強調したのです。これはまさにビールの本質を言い当てています。皆で飲むのがビールの魅力なのです。



口を塞いで睡眠の質向上！

「ナイトミン鼻呼吸テープ(小林製薬)」

今年4月、テープで口を塞ぐことで口呼吸から鼻呼吸へ誘導する商品が発売された。就寝時の口や喉の乾燥を抑えびきを軽減し睡眠の質をよくするというもの。テープは、はがすとき痛くないよう柔らかいシリコン系の粘着剤を採用。今春の新商品では最も引き合いが多い。



「東京五輪・パラリンピックに向けて規制強化案を公表」

受動喫煙防止法がいよいよ？(他人のタバコの煙にさらされること)
 外食市場の売上、8401億円のマイナスの影響があるとされる。
 特に居酒屋、バー、スナックの影響が大きかった。(民間調査)
 ただ、厚労省は同様の規制を導入している諸外国ではバーやレストランの売上は減少せず、米ワシントン州などではむしろ売上が増えたとする調査結果を提示。
 規制が必ずしも減収につながらないと強調している。

- ① 少肉多彩(しようにくたさい)
- ② 少塩多酢(しょうえんたさく)
- ③ 少糖多果(しょうとうたか)
- ④ 少食多嗜(しょうしょくたぎょう)
- ⑤ 少衣多浴(しょういたよく)
- ⑥ 少車多歩(しょうしゃたふ)
- ⑦ 少憂多眠(しょうゆうたみん)
- ⑧ 少憤多笑(しょうふんたしょう)
- ⑨ 少言多行(しょうげんたぎょう)
- ⑩ 少欲多施(しょうよくたじ)

十少十多
健康訓

あの人はいいい人だと
信じきればだんだん良き人に見えてくる。
逆に荒ら探しが始まったなら人間も世の中もおしまい。
自分が主張したいだけ他人の意見も聞かねばならぬ。

ことば

納涼メニュー



・五島うどんセット
600円+税



・手巻きすしセット
800円+税



・冷やしそうめん
セット
560円+税

- ・元酒豪、今はシラフで千鳥足
- ・体より、口が悪いと医者が出る
- ・いびきより、静かな方が気にかかり
- ・弱みです「やせませす」「限定」「お買い得」
- ・一日は長くて、一年は矢の如し

シルバー川柳・短歌

「恩送り」の想いから生まれた一杯
ちゃんぽん
 異国と日本の伝統が混ざり合う独特な文化を形成してきた長崎の特性を象徴する料理の一つである「ちゃんぽん」の誕生は100年以上も前のこと。考案者の陳・平順さんは明治25年頃に中国・福建省から長崎に渡り、同32年には中国料理店「四海樓」を開店。故郷の麺料理をベースに長崎食材を加えるなどの工夫を凝らしオリジナリティ商品が評判になり、やがて「ちゃんぽん」と呼ばれるようになった。具材は豚肉、海老、イカ、キクラゲ、キャベツ、モヤシ、長葱、そして紅白色のはんぺんも欠かせない。中華鍋で具材を強力な火力で一気に煮込むことでちゃんぽん独自の味わいが生まれる。「裸一貫で長崎を訪れた平順は先達の華僑の人たちに助けられて四海樓を開店することができた。その恩を次世代の若者たちに送りたい」と思い、安くて栄養価が高く、お腹いっぱいになる料理を提供しようと「ちゃんぽん」を考案したのです。

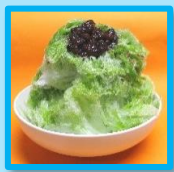
ちゃんぽん



かき氷でホッとひと休み



いちご
450円+税



抹茶金時
550円+税



いちご(小)
300円+税

幕末の開国で江戸にやってきた多くの外国人が口を揃えています。誰もが気持ちよく生きるためにはどうしたらいいか。みんな考えてそして、生まれたのが「江戸しぐさ」。雨の日すれ違う人に水滴がつかないよう傘をかしげる「傘かしげる」。人を色眼鏡で見ないため初対面の人には年齢・職業・地位を聞かない「三脱の教え」。そこには、共に生きるための人への思いやりと知恵が詰まっている。江戸っ子には「自分のことだけを考えるのは恥ずかしいこと」という意識があつて、恥を知って自分を律する。それは、武士も商人も同じでした。義や情が大切にされ、「儲ければ何でもいい、は人倫の道に外れた恥」の美学がありました。又、多くの人が共に生きるために誰もが資源やモノを大切にしながら共生と循環型社会それが江戸でした。

「町が清潔、人々が親切で正直。男だけでなく女性も読み書きができるお金や権力があっても驕らず、貧しくも卑下しない。本当の平等精神が浸透している。」
 お金や物に頼着せず助け合う!!
 「お互い様よ」260年間、内乱一つ起こさずに平和を維持し続けた江戸時代。今その心と文化が見直されている。江戸は世界最大の人口密集都市。元禄のころ、ロンドンやパリの人口が50〜60万人だったのに対して、江戸は100万人に達したと言われる。参勤交代で地方から来る武士たち、商いに来る商人たち。江戸には地方の人もたくさんいた。「当時は、それぞれの地域にそれぞれのお国振りがありましたから、江戸は言葉も文化も異なる人が集まる国際都市でした。が、平和に暮らす知恵がありました。」
 幕末の開国で江戸にやってきた多くの外国人が口を揃えています。誰もが気持ちよく生きるためにはどうしたらいいか。みんな考えてそして、生まれたのが「江戸しぐさ」。雨の日すれ違う人に水滴がつかないよう傘をかしげる「傘かしげる」。人を色眼鏡で見ないため初対面の人には年齢・職業・地位を聞かない「三脱の教え」。そこには、共に生きるための人への思いやりと知恵が詰まっている。江戸っ子には「自分のことだけを考えるのは恥ずかしいこと」という意識があつて、恥を知って自分を律する。それは、武士も商人も同じでした。義や情が大切にされ、「儲ければ何でもいい、は人倫の道に外れた恥」の美学がありました。又、多くの人が共に生きるために誰もが資源やモノを大切にしながら共生と循環型社会それが江戸でした。

互いに気持ちよく生きるために人と環境とも共生していた江戸

